

学会報告書

2016年11月27日（日）に大阪観光大学でコンテンツツーリズム学会の第4回論文発表大会が開催されました。今回の大会参加人数は53人でした。盛況のうちに第4回大会を無事終えることが出来ました。

本大会のプログラムは以下の通りです（以下のプログラム参照）。14:00の開会の挨拶では、法政大学大学院の増淵敏之教授と大阪観光大学・観光学部長の橋弘文教授の挨拶があり、続いて論文研究発表が行われました。論文研究発表では、次の5人が発表されました。1人目の毛利康秀氏（日本大学・文理学部情報科学研究所・研究員）が「近代観光の発達にコンテンツとしての絵葉書が及ぼした影響に関する歴史社会学的研究」について発表されました。次に、貝沼明華氏（金城大学大学院後期課程）が「愛知県の観光問題と新興ポップカルチャーイベントー世界コスプレサミットの事例ー」について発表されました。そして、瀧本往人氏（大正大学・地域創造学部・助教）が「コンテンツとしての「フクシマ」への不可能な旅ー4つの漫画「作品」から「物語」をつくりだすー」を発表されました。続いて、清水麻帆氏（大正大学・地域創造学部・助教）が「歴史的建造物の活用と維持可能なコンテンツツーリズムー香港の事例研究ー」について発表されました。最後に、菊池英輝氏と志塚昌紀氏（慶応大学大学院後期課程・東京富士大学・経営学部・講師）が「コンテンツツーリズムとしての「街コス」ー「ラブコスみよし2016」を事例としてー」を発表されました。続きまして、神戸フィルムオフィス顧問兼観光カリスマ・VISIT!JPAPAN大使の田中まこ氏が「フィルムコミッションが支える日本のコンテンツツーリズム」について特別講演されました。田中氏は2000年から2016年3月まで神戸フィルムオフィス代表を務め、現在は神戸フィルムオフィス顧問として、その他幅広い活躍をしています。そして、コンテンツツーリズム学会名誉会長の溝尾良隆立教大学名誉教授とコンテンツツーリズム学会副会長の安田亘宏西武文理大学教授らが大会全体の講評をし、コンテンツツーリズム学会理事の中村忠司大阪観光大学教授の閉会の挨拶で締めくくられました。その後、居酒屋に場所を移し懇親会が和やかな雰囲気の中行われました。

今回の大会では、様々な切り口からの報告と活発な議論から、さながらコンテンツツーリズムの可能性を見出せる大会になりました。

最後に、講演者、関係者そして発表者の皆様、また当日運営にご尽力いただきました大阪観光大学の
中村忠司教授、誠にありがとうございました。



【プログラム】

- 14:00 開会挨拶
コンテンツツーリズム学会会長 増淵敏之（法政大学大学院教授）
大阪観光大学観光学部長 橋弘文（大阪観光大学教授）
- 14:15 論文発表
5人（1人15～20分）
- 15:45 特別講演
田中まこ（神戸フィルムオフィス顧問・観光カリスマ・VISIT! JAPAN 大使）
- 16:45 全体講評
コンテンツツーリズム学会名誉会長 溝尾良隆（立教大学名誉教授）
コンテンツツーリズム学会副会長 安田亘宏（整理文理大学教授）
- 17:00 閉会挨拶
コンテンツツーリズム学会理事 中村忠司（大阪観光大学教授）
- 17:30 懇親会